



シーズ名

認知機能低下の血清バイオマーカー探索用データベース

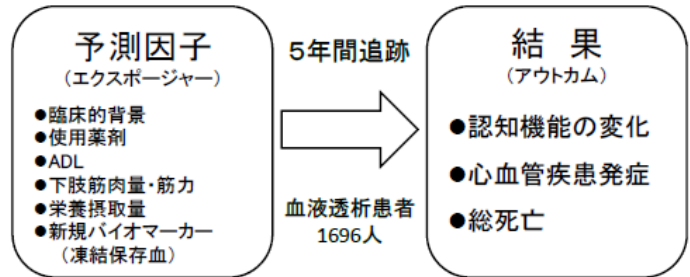
所属・役職・氏名

血管病態制御学・准教授・庄司 哲雄 (SHOJI, Tetsuo)

<要旨>

超高齢化が進むわが国において、認知症はますます重度の増す病気である。認知症予防のためには、ある時点での認知機能を決定する因子ではなく、今後の経年的な認知機能低下を予測する因子（危険因子）を同定することが大切である。そのためには、認知機能を経年的に繰り返し測定し、その低下の様子を予測する研究が必要となる。

本シーズは、認知機能低下が生じやすい慢性腎臓病（CKD）の中で透析患者を対象としたコホート・データであり、毎年認知機能を測定し、心血管病や総死亡も記録されている。認知機能や心血管疾患などをアウトカムとした臨床疫学研究に広く利用可能である。



<研究シーズ説明>

本シーズは、特定のバイオマーカーではなく、バイオマーカーを探索するためのデータベースであり、維持血液透析患者 1697 人からなる Osaka Dialysis Complication Study (ODCS) というコホートで、2012 年度に採血した血清が-80℃で保存されている。2012 年以降 5 年間、毎年認知機能を検査する計画であり、2012 年度は 1200 人以上の患者さんの認知機能が記録されている。

<アピールポイント>

認知機能は、日本で普及している長谷川式（HSD-R）、国際的にも利用されている MMSE、3MS の 3 通りで点数化されている。その他のデータとしては、年齢、性別、透析年数、腎不全の原疾患、透析条件、既往歴、主なラボデータ、定期処方リストなどがある。心血管疾患、骨折、感染症入院などのアウトカムも同時に記録しているので、それらの発症を予測するモデルも構築できる。

<利用・用途・応用分野>

- 認知機能低下リスクのスコア化、バイオマーカーの探索
- 心血管疾患発症リスクのスコア化、バイオマーカーの探索

<知的財産権・論文・学会発表など>

- 庄司哲雄、他「慢性腎臓病・透析患者における認知機能低下」第 33 回日本認知症学会学術集会 シンポジウム 5、横浜、2014/11/29
- 庄司哲雄、他「維持血液透析患者の血圧と認知機能～Osaka Dialysis Complication Study～」第 62 回日本透析医学会学術集会・総会 シンポジウム 9、横浜、2017/06/17

<関連するURL>

UMIN-CTR「透析患者における認知障害の実態と心血管疾患・日常生活活動度との関連」Osaka Dialysis Complication Study (ODCS), <https://upload.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000008813&language=J>

<他分野に求めるニーズ>

認知機能以外にも、心血管イベントや総死亡も解析できます。保存血清を用いて可能な共同研究のご提案をお待ちします。

キーワード

認認知機能、心血管疾患、予測モデル、バイオマーカー、慢性腎臓病、透析